

の森  
アート

第18号 2017・2

宇都宮美術館  
友の会ニユース



アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド 《左から 牡蠣用フォーク／キャヴィア用ナイフ／エスカルゴ用フォーク》 1902～03年

牡蠣用：銀、19×2.5×1.7cm キャヴィア用：銀その他、19.6×3.2×1.2cm エスカルゴ用：銀、14.5×2.6×1.2cm コッホ&ベルクフェルト銀器工場

ベルギーは、世界に冠たる美食の国。アンリ・ヴァン・ド・ヴェルドがデザインしたこの銀器は、どれも特定の食物を楽しむために作られています。生命の温かみを感じさせる斑の入った素材が、銀と組み合わせられているのが面白いところ。よく見ると銀の柄には、節足動物や植物を思わせる有機的なカタチが使われています。ベルギーの美術には、生物と無生物がまじりあって生まれたかのような謎の生き物や、異種混淆のハイブリッド動物が、古くから描かれてきました。この春宇都宮美術館で開催する「ベルギー 奇想の系譜展」には、そうした不思議な生き物たちが集合します。500年に及ぶ想像力の冒険をお楽しみください。

(主任学芸員 伊藤伸子)

## 友の会のこれから…20周年に向けて

友の会としてスタートをし、重責を感じながら10年が経過しました。この間何よりも重く感じたのは、会としての運営がスムーズにできるか、そして会員の皆様に満足していただけるかどうかでした。旅行や美術講演会、コンサート、会紙の発行、クリスマス会など、各部の部長をはじめスタッフの皆さんの活動に支えられ、また、美術館のご指導を頂きながらやって参りました。

今回は、友の会のこれからについて述べたいと思います。今までの運営は、美術を愛する人たちの気持ちと、ボランティアの心によってなされてきたものです。また、友の会の目的は、宇都宮美術館の文化芸術振興事業を支援し、会員相互の親睦を図り教養の向上と、文化芸術の

発展に寄与するとなっています。これらの目的がどれだけ達成されるか分かりませんが、会員の皆様が、今年も友の会に入会しよう、また、新たに入会してみようと思われる様な活動を目指さなくてはなりません。宇都宮市民の方でも、美術館に来たことがない、場所はどこですかと聞かれることがあります。もっともっと美術に親しんでもらいたいと思います。そのためには会員の皆様が広報の役割を担っていただけると有難いと思います。これからも皆様に親しまれ、満足いただけるよう友の会の充実を図っていきますので皆様のご協力をお願いいたします。

(友の会会長 青木紀一郎)

## 大谷石の来し方と行方④

「石の街うつのみや」展のご紹介

大谷石に関わる連載記事の最終回は、この石について、地質・歴史・産業・建築・美術の視点から探る当館の企画展「石の街うつのみや——大谷石をめぐる近代建築と地域文化」(2017年1月8日～3月5日)の見どころをご紹介します。

ところで皆さんは、宇都宮美術館が建つ長岡町も、かつては大谷石に似た石材を産し、そもそも大谷地区と地質学的につながっていることをご存知でしたか？ 実を言うと、私たちに馴染みの有る「大谷石」は、地質学で定義される「大谷層」の一部で採掘される岩石を指します。この「大谷層」は、非常に深く、かつ大きな広がり持つもので、長岡町もその中に含まれます。たとえば、美術館の裏を流れる田川の川底は、大谷層の上層「ユニットI層」に相当し、脆い性質の「細粒凝灰岩」であることから、石材として利用できません。しかし、同じ長岡町でも、より深く掘り下げると、「ユニットIII層・IV層・V層」に到達し、これらの層で採れる「軽石凝灰岩」は、いわゆる大谷石と同じ性質を示します。もはや採掘されていませんが、この付近で産出した「長岡石」がその石材名称です。

本展では、そんな話題から始まる序章(地質・歴史)を皮切りに、この石が近代の宇都宮にどのような意味を持ち、恵みをもたらしたのかを、第1部(産業・建築)で詳しく分析していきます。第1部の見どころは、大谷石を近代建築に取り入れたフランク・ロイド・ライトの業績と、同時代の地域の大谷



(右) 大谷層 ユニットI層の細粒凝灰岩(田川の川底で採集)

(左) フランク・ロイド・ライト設計《旧・帝国ホテル ライト館の柱》1923年、博物館明治村蔵

石建造物を、図面や写真に加えて、模型(本展のために同じ縮尺で製作)と実物(建物の一部や装飾)でリアルに展示する点です。特に、博物館明治村からお借りした「旧・帝国ホテル ライト館の柱」は、新しい工法や素材の使い方が、建築の意匠をどれほど画期的に変えたかを、つづさに見ることができます。さらに、第2部(美術)では、自然と人の手で生み出された大谷の風景を、地域内外の美術家たちがどのように捉え、何を感じたのかに関して、さまざまな表現の作品によって紹介します。第2部の見どころは、「平和観音」の制作過程を示す貴重な石膏像です。

ぜひ、ご高覧いただければ幸いに存じます。

(主任学芸員 橋本優子)

## 学芸員室から

美術館の頼もしい大黒柱、学芸員をより近くにより親し  
みを感じてもらうために順次エッセイをお願いしました。



## マグリットと宇都宮美術館、もうすぐ20年

「しかしマグリットという画家を市民の何パーセントが知っているか」

今、私がひもといっているのは、宇都宮美術館が建つ少し前の、新聞の切り抜き帳。むかし振興会（当時）の方がたが作成してくださったものです。冒頭に掲げたのは、1996年6月の下野新聞の投書欄からの一節です。ほかに、

「いわゆる客寄せなどには無縁の、静かで敷居の低い“市民美術館”に育てたい」。ルネ・マグリット《大家族》の飛来をきっかけとして、さまざまな期待と不安が、生まれようとする美術館に寄せられていました。

早いもので、この3月23日に宇都宮美術館は20歳の誕生日を迎えます。開館20周年記念展の第2弾は、3月19日から始まる「ベルギー 奇想の系譜展」。マグリットの母国です。

今や《大家族》は、展示室に飾られていないと苦情の電話がかかってくるほどの存在になりました。存在感ゆえに、知恵を絞らないといけないこともあります。宇都宮美術館の最大のリピーターである読者諸兄は、我が同僚たちの《大家族》展示における「あの手この手」を体験しておいででしょう。

「ベルギー 奇想の系譜展」では、フランドル絵画史500年の長い歴史の中に置いてみたときに、《大家族》がどんな表情を見せるのかがひとつのハイライト。私自身もとても楽しみです。20年前の熱い議論を思い返しながら、展覧会を準備しています。果たして《大家族》は市民の100パーセントに出会えるでしょうか？

(主任学芸員 伊藤伸子)

## 作家紹介

9月18日～11月27日

パーチメントクラフト 長谷川京子氏



「パーチメント」とは、本来「羊皮紙」を意味し、古くは「プレイヤーカード」（宗教画や聖書の話を描いたカード）に使われ、後にウェディングやバースデーカードとしても使用されました。厚手のトレーシングペーパーに絵を描き、エンボスをし、レースのような穴を開けて、カードや壁飾り・ランプシェード・小箱など立体的な作品が出来ます。

スターウォーズ展会期中のご紹介で、多くの来館者に見て頂くことが出来ました。レストラン内では、繊細で優美な作品を展示し、展示ボードでは、製作手順など丁寧なパーチメントの世界をご紹介することが出来ました。

(小林和子)

## 美術講演会

8月6日

「世界遺産“日光東照宮”の謎と真実」

日光東照宮特別顧問  
文星芸術大学非常勤講師

高藤晴俊氏

栃木県民は、日光というとおおかたのことは知っていると思いこんでいる。だから、日光東照宮の謎と言われても、だいたいあのことかと知っているつもりになっている。しかし、そんな思いこみは、高藤先生の巧みな話術に、冒頭から覆された。興味深い話にぐいぐい引き込まれ、新しいことを知る喜びを改めて味わった。

例えば、金属を食べるバクは、戦争になると生きていけなくなるが、家康によって戦争のない平和な時代になったから生きていられるという話。この話は白楽天の文の中にあるという。歴史を感じた。

(小林純子)



野紺菊 (のこんぎく)



## 秋の美術館めぐり

10月30日～11月1日

今回の旅は宇都宮美術館友の会10周年記念事業として、2泊3日の九州方面でした。参加者を乗せたバスは超早朝に美術館駐車場を出発し、午前中に長崎空港着高速船に乗り換えてハウステンボスへ…この日は全くのフリータイム。三々五々イルミネーションまで楽しみました。休日ではハロウィンであり、暗くなると魔女やゾンビ等に仮装した人達がそぞろ歩き、ドキッとする一瞬もありました。翌日は国宝大浦天主堂・グラバー園・めがね橋を観光しこの日の昼食が最初の全員での会食でした。午後は長崎県美術館でコレクション展を、学芸員の説明を受けながら長崎県ゆかりの作家達の作品を時間におわれながらも鑑賞する事が出来ました。最終日、朝一でまだ静かな櫛田神社へ、境内には年中山笠が展示されており、私達の地元・烏山の山笠より高く、間近で見ると大迫力でした。福岡市博物館では国宝金印「漢委奴国王」をしっかりと観て、多くの人に関連の品を購入した様子。福岡県立美術館で開催のピーターラビット展は、とっても素直な気持ちで鑑賞しました。2日間大変細やかに説明して下さいたガイドさんと別れて、一路羽田空港へ。何事も無く楽しい思い出をお土産に帰路に着きました。

(菅野明子)



太宰府天満宮

## 企画展のご案内

☆ 宇都宮美術館開館20周年記念  
ベルギー・フランドル幻想の系譜 3月19日(日)～5月7日(日)

### お知らせ コレクション展ギャラリー・トーク

一作品と対話してみませんかー  
毎週火～木曜・日曜日・祝日 午後2時 「作品解説倶楽部」

## U-moaコンサート

9月24日

夏の名残が漂う土曜の昼下がり、ユーモア溢れるおしゃべりを挟みながら、優しく穏やかなウクレレの音色で会場はすっかりハワイアンムードに。今回は洗練された魅惑的な大人のフラと子供達の初々しく愛らしいフラが参加。観客



はいつしか青い海が広がる椰子の木の下で、過ぎ行く夏に想いを馳せながら、心地良い時間を楽しみました。

(水垣俊子)

バンド：「Kaneohe Good Guys」 フラダンス：「Hula halau o maluhia」



芙蓉 (ふよう)

### 賛助法人会員

(株)西邑画廊 (株)三向地所 (株)トーホー・北関東 (株)田村緑知苑  
(株)酒井建築設計事務所 中央電機通信(株) 環境整備(株) 栃木実業(株)  
栃の木地所(株) 晋豊建設(株) 東亜警備保障(株) (有)マルワガラス  
(株)スズテック (株)穴吹工務店宇都宮サーパス会 (株)ケイエムシー  
三信電工(株) 栃木トヨタ自動車(株) イートランド(株)  
ランスタッド(株)宇都宮オフィス 磯部建設株式会社  
(学)宇都宮メディアアーツ専門学校 (医)北斗会 宇都宮東病院 (株)栃木銀行  
宮ビルサービス(株) (入会順)

### 会員加入状況

2017年1月11日現在 単位：人

一般会員	ペア会員	賛助個人会員	賛助法人会員	合計
317	134	29	26(口)	506

### 編集ノート

「アートの森」は友の会広報紙として2007年に発足、創刊号は数ヶ月の編集作業を経て2008年の1月31日に発行されています。友の会の前身、振興会から通算41号、年に2回のペースで美術館を取り巻く里山風景のように、今もゆったりと活動中です。背中を時の潮流に押される現代社会の中で、静かにアートと対面する豊かな余裕のひと時を持ちたいですね。  
(平出晴夫)

<アートの森> 第18号 (通巻41号)

発行日 2017年2月17日  
発行 宇都宮美術館友の会(宇都宮美術館内)  
〒320-0004 宇都宮市長岡町1077  
☎028-643-0100